



CONTENTS

Top Opinion

未来構想PF通信のリニューアルにあたって
未来構想PF会長 林 康雄

1

VOICE

鉄道とまちの将来像 ～10年後の基盤創造～
JR東日本 庄司 靖章

2

WS Topics

駅まち未来構想研修 部外関係者からの情報収集（第4回）

3

たすきリレー

未来構想PF設立に立ち会って
未来構想PF前事務局長 土井 博己

4

今月の国際比較データ

5

PF書店／私のインフラ巡礼／編集後記

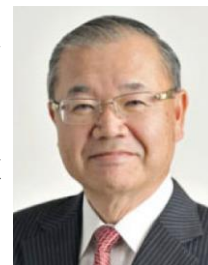
6

Top Opinion

未来構想PF通信のリニューアルにあたって

未来構想PF会長 林 康雄

未来構想PFが新しい体制になって半年が経とうとしています。この間、JR東日本の三島前課長、村木課長等が周到に準備した若手技術者の育成研修がコロナ禍の中、唯一粛々と進められています。On-lineとリアルを駆使して既に5名の有識者による講演とグループ単位の調査研究が進められています。今後中間報告会を経て年度末までに「都市と鉄道のあり方」に関する提言がまとめられるようです。どんな提案がなされるのか非常に楽しみにしております。



未来構想PF通信は2013年の創刊から約8年間にわたり配信してきました。この間、デジタルデバイスの急速な発展や地球環境保護のための印刷物削減として紙媒体から電子化への移行など、世の中の大きな流れによりパソコンやタブレットで閲覧するスタイルに変わってきました。そして今回からさらに縦置きから横置きへのフォーマット変更を行い、より読みやすいものに致しました。何かご意見があれば何なりとお寄せください。

今後、コロナ対策も11月頃には希望者に対するワクチン接種も概ね完了することにより、WITHコロナとしての行動緩和策が検討・実施されていくことと思います。未来構想PFとして新体制発足時に企画したその他の企画も来年の年明け頃からスタートすべく準備を行っていきたいと考えています。

一方、土木学会では地球環境問題、国土強靱化対策、AFTERコロナ対策等を踏まえ、今後の我が国のインフラの整備・維持に必要な投資・費用について、大胆に大づかみに「日本のインフラに関するビッグピクチャー」としてまとめ、来年6月に広く国民に対して提案、公表していく予定です。鉄道インフラを担う私たちとして、都市と鉄道のあり方や高速輸送体系のあり方などの観点から必要な主張を行っていきたいと考えています。

読者の皆様におかれましてはどんなご意見でも結構です是非お寄せください。

私のインフラ巡礼



～駒橋発電所落合水路橋～
100年以上送水を続ける7連のレンガアーチ
(ジェイアール東日本都市開発 大口豊さん)

未来構想PFのホームページ
(HP) をご覧ください。

会員はもちろん社会に大きく
開かれた「参加型」HPです。

未来構想PF

検索

で検索してください。

トップページへのリンクは
[こちら](#)



VOICE

鉄道とまちの将来像 ～10年後の基盤創造～ (令和3年度 駅まち未来構想研修)

J R 東日本 庄司 靖章

今年度の駅まち未来構想研修のファシリテーターを務めさせていた
だている、J R 東日本東京工事事務所開発調査室の庄司です。

今年度の駅まち未来構想研修では、「鉄道とまちの将来像～10年
後の基盤創造～」をテーマに、右記のメンバー（表①）で4月から1
年間かけて活動し、年度末に提言を取りまとめる予定です。

年間活動計画（表②）の通りで、全体メンバーで集まってる議論は
概ね月に1～2回、この他にメンバーは何班かに分かれての各班
の活動を行っています。

上半期は主に、人と都市の変化（＝日本特有の長期トレンド）、
成熟社会による価値観の変化（＝緩やかに変化）、アフターコロナの
人々の行動や意識の変化（＝10年先の世界が前倒し）、上記を支える
IT技術の進化（＝今後更に急速に変化）、変わらないもの（＝必要
により変えていく必要があるもの）などの観点から、今後10～30年
間に起こる環境の変化の整理を行っています。あわせて、有識者の方
から講演をいただき（表③）、見識を深める活動をしています。

下半期は、上記のような環境の変化を幅広い視点で学習し見識を
深め、それによって起こる変化を想像し、10年後の鉄道や都市のあり
方・あるべき姿、それに関係する各主体がどう行動すべきかにつ
いて、提言をまとめる予定です。

メンバーは現在、得られた様々な情報から、およそ30年後の技
術の進歩や環境の変化、鉄道や都市の姿を想像し、そこから戻って
10年後の途中段階での姿を
想像する作業から始めてい
ますが、10年、30年後を想
像する作業は想定以上に不
確定要素やブレ幅が大きく
難しく、試行錯誤や四苦八
苦しております。引き続き
皆様のご支援をいただけれ
ば幸いです。



表① 令和3年度駅まち未来構想研修メンバー

庄司 靖章	【ファシリテーター】 J R 東日本 東京工事事務所		
川崎周太郎	都市再生機構 都市再生部	柴崎 佑典	鉄建建設 関越支店
丸山 史人	J R 東日本 建設工事部	阿部 久乃	J R 東日本 東京工事事務所
大藤 恭平	J R 東日本 東京工事事務所	大庭 啓輔	鉄建建設 経営企画本部
梅原 隼	J R 東日本コンサルタンツ 調査企画部	横田 昇吾	J R 東日本 東京工事事務所
後藤 祐樹	J R 東日本 東京工事事務所	吉住 弥華	J R 東日本コンサルタンツ 調査企画部
児玉 章裕	J R 東日本 東京工事事務所	田實 渉	J R 東日本 投資計画部
太田 裕之	国土交通省 都市局 街路交通施設課	田中 寿弥	J R 東日本 投資計画部
本波 和也	J R 北海道 鉄道事業本部	芳山 慧子	J R 東日本 品川・大規模開発部

表② 年間活動計画

		2021年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会議 打合せ	メンバーMTG (企画チーム・関係者メンバーも参加)	月1～2回開催											
	★P F 報告会								中間 報告 11/25予定				最終 報告
作業 フロー	①情報収集・社会環境変化の整理												
	②部外有識者からの情報収集 (表③)	第1回 4/20		第2回 6/3	第3回 7/15	第4回 8/19		第5回 10/8					
	③提言書まとめ												
	(1)10年後の社会環境変化の設定												
	(2) (1)を踏まえた鉄道・まちのあるべき姿の設定												
	(3) (2)と現状とのギャップの定性的・定量的な整理 (＝課題整理)												
	(4)課題解決策のアイデアメニュー出し・メニュー選定												
	(5)課題解決アイデアの実践方法 (＝関係主体がどう行動すべきか)												
	(6)フィードバックアクション												
	(7)取りまとめ												
	(8)各種報告 (社内外)												

表③ 有識者による講演

専門分野	所属・氏名	備考
都市・まち一体型開発 (TOD)	日建設計 執行役員 都市部門 奥森 清喜 様	4/20開催
環境、交通、大規模開発、まちづくり	早稲田大学社会環境工学科 教授 森本 章倫 様	6/3開催
都市・交通シンクタンク MaaS	(一財) 計量計画研究所 理事 牧村 和彦 様	7/15開催
自動運転	先進モビリティ (株) 代表取締役 青木 啓二 様	8/19開催
鉄道の在り方、駅まち一体まちづくり	東急(株)都市開発事業部建築技術G統括部長 松岡 泰史 様	10/8開催
その他		検討中

④小型自動運転車は軽量なため自由通路や橋上駅にも乗入れ可能。それを考えた交通結束機能を考えると良い。



たすきリレー

未来構想PF設立に立ち会って

未来構想PF前事務局長 土井 博己

一般社団法人未来のまち・交通・鉄道を構想するプラットフォームは、法務局への登記が完了して平成22年12月17日設立した。

■設立理事会

平成23年1月26日、新役員が一堂に会し設立理事会を開催した。会長（代表理事）に山本卓朗氏、副会長に矢島隆氏を選任したのち、設立までの経緯を説明するとともに今後の活動について意見交換を行うFDを実施、その時の主な話題を以下に紹介する。

○プラットフォーム（以下、PF）というのは、まず土台をつくろうということである。何かをやろうとする際、誰が中心で、メンバーをどうして、どのように進めるか、など会議体を立ち上げるのに時間を要するが、PFという既にある枠組みを利用することで手間が省けすぐ本題に入れる。このPFを利用して各種議論、研修等いろいろなことが出来るのではないかと考えている。具体的な話は皆さんのご意見を伺い、走りながら考えたい。

⇒京都の文化遺産を守ることを目的にPFがつくられ、先日その会議に参加した。文化遺産を守るために我々に何が出来るかについて、PFをベースに考えていこうというもので、いろんな事が出来るのではないかと感じた。

⇒PFにおいて、まち・交通・鉄道はひとつの核だが、防災をやるなど、ちょっとはずれたテーマがあってもかまわないと考えている。○まちづくりなど、まちに関するNPO等の団体は多いが、鉄道に関する団体は重要なわりにほとんどない。まちづくりと比べて、鉄道に関して普通の人はなかなか物を申せないため、鉄道を知っている人がまちづくりを含めて全体を考えるのはとてもいい事だ。

○テーマをどのように選ぶのが重要なポイントだ。あまり宙に浮いたものをやってもしょうがないが、今は動かなくてもいずれ必要になる、プロジェクトが動き出した時にある程度計画が議論されている、といったテーマがほしい。また、都市・道路・鉄道が各々断絶されている事例があちこちで見られる。昔なら友人間で「どうなってるんだ」と意見交換できたものだが。

⇒JAPIC的な遠い先のプロジェクトもあるし、近いプロジェクトもある。また、企業が入るとお互いに壁ができる。例えば、品川は

京急・JR・駅広（自治体）間で全然前に進んでいない。横浜も同様、臨海線も同様だ。動く条件は揃っているのに全く動かない。ほっとくと誰も言い出さない事について、そのきっかけをどうつくるか。もっと具体的に、どうやったら具現化できるか、を提案するのが我々の役割・知恵だしの議論だ。

○若い人を活動に入れて、人脈をつくっていくのもひとつの役割だ。○海外の話で気になっているのは、外国で鉄道を計画する際に「貨物＝物流」の視点が必ず必要ということ。貨物をかわる人は商社にもいない。アメリカの鉄道計画についても深度化していくと、いずれ貨物の議論になる。インドもそう。そういう具体的な計画ができる人がいない。民営化以降、基礎力が欠けている。行き着く先は、インドのスマートシティを提案するコンペで全滅した日本企業だ。そういう点でも、まち・交通・鉄道の議論を早く進めて、こういったことに対応できるようにする必要がある。

⇒韓国から日本の新幹線沿線の開発状況調査を依頼されている。韓国も鉄道周辺のまちづくりに目が向き始めた。

⇒台湾や上海新幹線の計画も鉄道だけしか考えずに計画されており、駅的位置、都市とのアクセスなど、都市計画との整合の視点が不足している。

■突然、設立チームに参加

出張先の信濃川発電所業務改善岡事務所で、たまたま居合わせた（当時の）JR東日本林常務から「新しく立ち上げる団体の事務局に、そして設立準備を手伝うように」と突然言われた。調査計画関連の団体らしく、これまで設計施工しか経験していない私には無理ですとお断りしたが、「いいんだ」の一言で設立準備チームに参加することとなった。

「定款」は菊田さんが四ッ谷の公証役場と交渉中で、最終段階の打合せに同行した。JR東日本では社内関係者への設立趣旨等説明が行われており、並行して設立時理事候補者への就任要請が進んでいた。また、杉下さん達によりロゴマークも出来上がっており、団体の形態をNPOか一般社団法人にするか検討中であった。法務局への届け出は全て菊田さんが行い、登記完了後、謄本と新しい社印を預けられ、設立理事会も山本会長から10万円借り入れて開催、無い無い尽くしでのスタートであった。もう11年前の話だ。

未来構想PF 設立時の役員名簿

	氏名	所 属 先	記 事
代表理事、会長	山本卓朗	鉄建建設(株)特別顧問	
理事、副会長	矢島 隆	(財)計量計画研究所シニアフェロー	* 国交省OB
理事	只藤幸久	(財)東京都新都市建設公社理事長	* 東京都OB
同上	田中滋夫	早稲田大学上席研究員	* 建築・都市計画
同上	前田 誠	大成建設(株)常務執行役員	* 運輸機構OB
同上	清畑雄雄	JR東日本コンサルタンツ(株)顧問	* 鉄道会社OB
同上	森地 茂	運輸政策研究所所長	
理事、事務局長	土井博己	JR東日本コンサルタンツ(株)技術本部長	* 大学
監事	小尾哲夫	鉄建建設(株)	





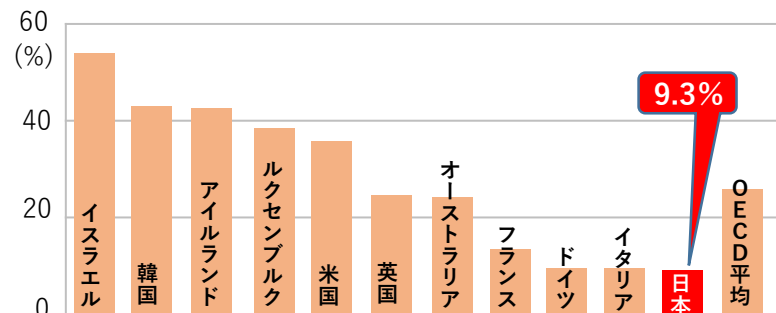
今月の国際比較データ



働き方改革の観点から、「選択的週休3日制」の導入機運が高まっており、政府は「2021年骨太の方針」に盛り込み、大手を中心に制度を整える企業が相次いでいます。労働生産性が低く、学び直しが進まない日本の現状として、週休3日をめぐる4つの数字を紹介します。

① 世界と比べて日本の社会人進学の割合は低い

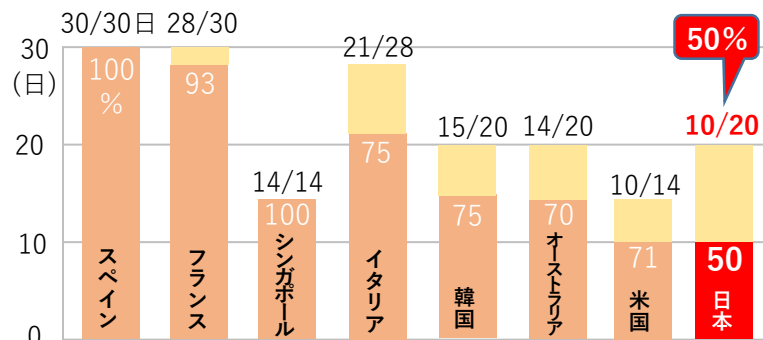
● 2018年の修士課程入学者のうち、30歳以上が占める割合



出所：OECD Education at a Glance (2020)

② 日本の有休取得率は低い

● 主な国の有給休暇取得率

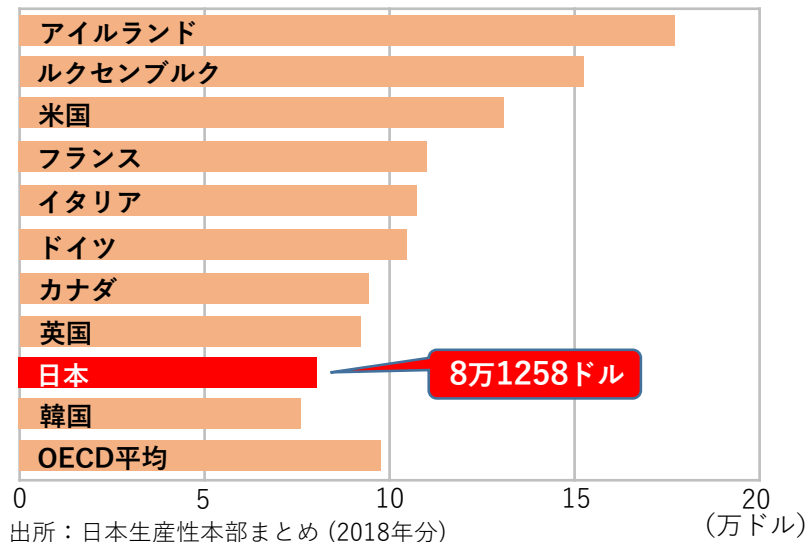


注：日数の表記は、「取得日数／付与日数」

出所：旅行サイト大手米エクスぺディアの有給休暇国際比較調査2019

③ 日本の生産性は先進7カ国で最下位

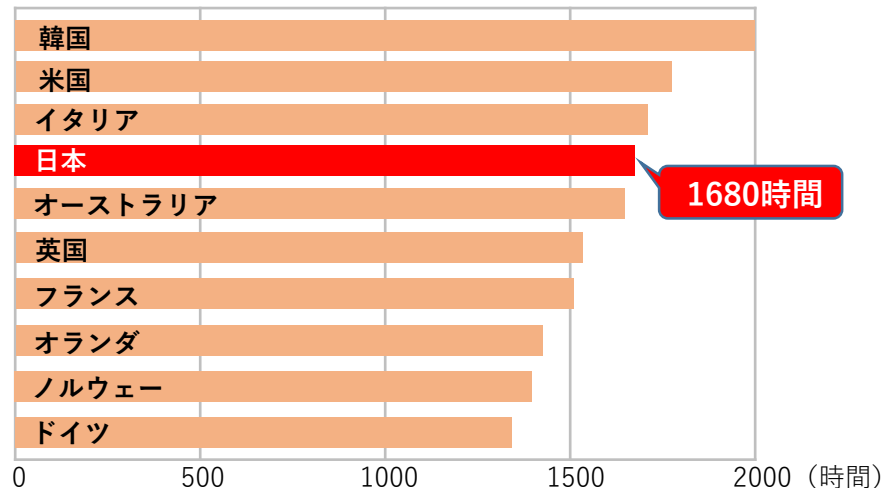
● 主な国の1人当たりの年間の労働生産性



出所：日本生産性本部まとめ (2018年分)

④ 世界でも日本の労働時間は長い方だ

● 主な国の1人当たりの平均年間総実労働時間



出所：労働政策研究・研修機構のデータブック国際労働比較2019



PF 書店



本の題名をクイックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！

① DXの思考法 (西山圭太 著 文芸春秋)

デジタル化のロジックで「企業のあり方そのもの、組織のあり方そのものを問う」ことが真のDXであるが、デジタル技術の急速な発展によって、いまのグローバル競争のスピードは極めて速くなり、戦略をつくって実行しようとしたころには、環境と合わなくなる、という状況におちいる。企業が生き残るためには、そのときどきの戦略を作り込み、PDCAを回し、あるいは今流行りつつある事柄を追いかけて勉強するというやり方ではダメなのである。そうした表面的なことの奥底にあるロジックを個人と組織の身体に刻み込むことが必要で、デジタル化のロジック(DXの思考法)を身につけることの重要性を熱く説いている一冊である。

② 海馬を求めて潜水を

(ヒルデ・オストビー、イルヴァ・オストビー 著 みすず書房)

記憶は脳にとって、そして人間存在において極めて重要な機能であり、単純なメモリの能力はコンピュータに凌駕されている現在、人間らしい記憶の本質は何か。作家のヒルデと神経心理学者のイルヴァの姉妹が協力してさまざまな人に問いかけ、考えることを目的に、脳において記憶の中核とされている「海馬」を手掛かりとした記憶をめぐる探究の旅を描くと同時に、記憶の科学の優れた解説書でもある。本書の人間的なタッチは、記憶をめぐる最も困難な問題に取り組んだ時に際立ち、さまざまな気づきに満ちた姉妹の探求の旅へ誘ってくれる。

③ 東京建築遺産さんぽ (大内田史郎 著 エクスナレッジ)

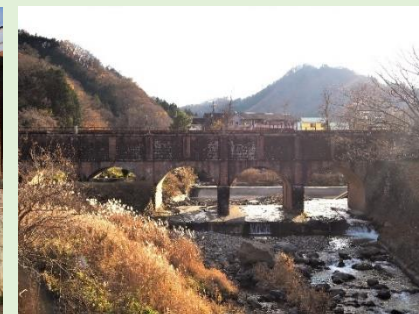
今月号より新連載になった「私のインフラ巡礼」。土木・建築の歴史的構造物を順次紹介していくが、その中で参考になる明治から昭和初期に建てられた東京都内・近郊に現存する建物や工作物を紹介している一冊。本書では意匠的な側面や歴史的な観点だけではなく、今ではほとんど見るができなくなった構造・設備・材料といった当時の技術にも着目しながら様々な種類の40もの建築遺産を取り上げて皆様もご存じの著者が解説している。本書を片手に遺産散歩はいかがでしょう？(PF通信での遺産紹介も募集しています)



私のインフラ巡礼



駒橋発電所落合水路橋 (山梨県都留市)



山梨県大月市の駒橋発電所は明治年間に建設され、始めて55KVの高電圧送電を行ったことで有名ですが、都留市内の桂川から取水した発電用水を駒橋まで送る約7Kmの水路も、当時の姿のまま現在も利用されています。落合水路橋は中でも最大級の構築物で、1907年に建造され、7連のレンガアーチで朝日川を越えて、現在も送水を続けています。1997年には登録有形文化財にも指定され、富士急行線禾生駅から国道139号線を徒歩10分程で見学できます。

(ジェイアール東日本都市開発 大口 豊さん)

編集後記

未来構想PF通信の編集リーダーを務めさせていただくことになりましたJR東日本の岩井と申します。今月号から新しい誌面レイアウトにて発刊することになりましたが、いかがだったでしょうか？今後も皆様にとって読みやすく参考になる有意義な誌面づくりに編集チーム一同取り組んでまいりたいと思っています。会員の皆様からのご意見やご要望をお待ちしております。(JR東日本 岩井 有人)

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。

連絡先：未来構想PF事務局 大口

電話：03-4334-8157

メール：info@miraikoso.or.jp

〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28